



2023年7月28日

各 位

会 社 名 **株式会社ツルハホールディングス**

代表者名 代表取締役社長 鶴羽 順
(コード番号 3391 東証プライム)

問合せ先 執行役員管理本部長 村上 誠
(TEL 011-783-2755)

7月19日のオアシス開示資料に対する当社取締役会の見解

当社は、2023年6月14日付「[株主提案に関する書面受領等のお知らせ](#)」にて公表したとおり、OASIS INVESTMENTS II MASTER FUND LTD. (以下「オアシス」といいます。) から本年開催の当社定時株主総会に対する株主提案 (以下「本株主提案」といいます。) を受けていますが、当社取締役会は、同年7月7日付「[株主提案に対する当社取締役会意見に関するお知らせ](#)」(以下「7月7日付当社プレスリリース」といいます。) 及び同日付「[株主提案に対する当社取締役会の説明資料](#)」(以下「7月7日付当社補足資料」といいます。) にて公表したとおり、**本株主提案の全てに反対**する旨を決議しております。

これに対してオアシスは、同年7月19日付で『株式会社ツルハホールディングスによる「株主提案に対する当社取締役会意見の説明資料」を受けたオアシスの補足説明資料』(以下「7月19日付オアシスプレスリリース」といいます。) を公表しておりますが、**その内容は未だに誤った認識に基づく一方的かつ恣意的な主張に終始するものであり、当社取締役会の意見に変更はございません。当社取締役会は、引き続き、本株主提案の全てに反対いたします。**

当社取締役会といたしましては、まず、オアシスが株主提案を行ったとする理由そのものが、誤った認識に基づく一方的かつ恣意的な主張にほかならず、当社の客観的な状況やこれまでの実績・展望を看過し又は無視した「論点設定」であると評価せざるを得ないことなどから、本株主提案の全てに反対の意見を表明しているものであります。すなわち、

- ① **当社に「社外取締役の総入れ替え」が必要となるガバナンス上の重大な問題点は存在しません。**
- ② 当社が健全で持続的な成長を実現し、中長期的な企業価値の向上、ひいては株主共同の利益向上を果たしていくためには、**当社提案の取締役候補者で構成される取締役会が適切かつ最善**であると考えます。
- ③ オアシスは、当社取締役会には「創業家」による強い支配が存在し、「子会社間の事業

上のシナジーの完全な発揮や、創業家以外の人材の登用が阻害され」ていると指摘しますが、事実無根であり、オアシスからもその根拠や具体例は一切示されていません。

- ④ オアシスの主張は、そのいずれもが、現取締役の選任の機会より前から存在する事実を論難するものや、本来全く関連性のない事情をあたかも当社に「社外取締役の総入替え」が必要となるガバナンス上の重大な問題があるように歪曲して評価する憶測の域を出ないものであって、各監査等委員である社外取締役が、既にそれらの事情が存する状態で高い信任を得てきたものであることを看過し、又は無視したものです。
- ⑤ オアシスが特に指摘している監査等委員である社外取締役3名につきましては、各人が選任された定時株主総会にて株主の皆様からの圧倒的な信任をもって選任いただいております。その選任後現在に至るまで、当社において「社外取締役の総入替え」が必要となるようなガバナンス上の重大な問題は生じておりません。
- ⑥ 当社は、当社提案に係る取締役候補者で構成される当社取締役会において、これまでもM&Aを実施して当社グループの収益力の強化及び収益力改善を実現し、当社の企業価値を向上してきた実績があります。今後も、大型のM&Aを含め、ドラッグストア業界におけるM&Aを着実に遂行していくためには、ドラッグストア経営についての豊富な経験とそれに基づく知識や人脈を有し、ドラッグストア業界におけるM&Aの経験と実績を有する取締役が主導していくことが不可欠であり、オアシスの提案は、当社がこれまで実現してきたM&A戦略に悪影響を及ぼしかねないと考えます。

なお、当社は7月7日付当社プレスリリースにおいて、オアシスの主張及び開示資料には誤導的かつ恣意的な印象操作が含まれる旨を指摘しておりましたが、7月19日付オアシスプレスリリースにおいても、誤った認識又は一方的な考えに基づく誤導的な記載が多く含まれております。株主の皆様に対して継続的かつ意図的に誤った又は誤導的な主張を繰り返すオアシスの姿勢に対しては、遺憾を表せざるを得ません。なお、株主様からのお問い合わせが特に多い事項につきましては、別紙にてご説明しておりますのでご参照ください。

当社グループは、地域に愛され、喜ばれる、「日本一のドラッグストアチェーン」を目指し、「お客様の生活に豊かさと余裕を提供する」という経営理念のもと、このような理念を更に強化・実現していくことを目標として、2022年6月21日付「[新中期経営計画策定に関するお知らせ](#)」にて中期経営計画を公表しており、2023年5月期連結業績等を踏まえると、同計画は着実に実行できつつあると考えています。

2023年5月期以降につきましても、これまでと同様に戦略的なM&Aを推進し、グループ成長を実現させるとともに、経営基盤の安定と収益力の強化及び収益力改善のための施策を検討・実施しつつ、中期経営計画を着実に遂行してまいります。

当社株主の皆様におかれましては、本プレスリリース及び7月7日付当社プレスリー

スの内容をご覧くださいとともに、引き続き当社取締役会を信任いただき、当社の健全で強
靱な事業成長にご期待いただきますよう、お願い申し上げます。

以 上

※本プレスリリースは、皆様に対して、当社の考えをご理解いただいた上で議決権を行使し
ていただくことをお願いするものであり、当社又は第三者にその議決権の行使を代理させ
ることを勧誘するものではありません。

別紙

※7月19日付オアシスプレスリリースのうち、株主様からのお問い合わせが特に多い事項につきまして、以下のとおりご説明いたします。

- ① 同資料 10 頁に記載の「たまたま株価の底となっていた中期経営計画の発表時期を恣意的に起点としており、誤導的」との指摘について
 - 当社取締役会は、2022年6月21日に策定・公表した中期経営計画を、コロナ禍という客観的環境の厳しさに耐え、着実に遂行している過程にあり、実際、2022年6月を起点とした場合の当社の株価は比較的良好に推移しているなど、中期経営計画の内容とこれまでの実績は、市場の皆様にもご評価いただけているものと考えています。
 - このような状況を受け、当社の中期経営計画を公表したタイミング（2022年6月21日）である2022年6月を起点とした株価の推移をご説明したものであるところ、オアシスの指摘は、現経営陣の下における着実な中期経営計画の遂行とこれに対する市場の評価を意図的に無視しようとするものであるといえます。

- ② 同資料 18 頁から 21 頁に記載の“北洋銀行が当社のメインバンクであった事実はない”という当社の主張が誤った理解に基づき虚偽の開示である旨の指摘について
 - 同資料 21 頁に記載のとおり、現在のホールディングス体制に移行する 2003 年以前には北洋銀行との取引はございましたが、ホールディングス体制に移行後においてはメインバンクであった事実はありません。
 - また、現在においては融資取引自体が存在しておらず、藤井氏の独立性に疑義が生じるものではございません。

- ③ 同資料 29 頁から 30 頁に記載の当社提案の新任社外取締役 2 名の追加選任について
 - 当社が期待する取締役としての役割を考慮せずに疑問が提起されておりますが、当社は、7月7日付当社プレスリリースに記載のとおり、田中若菜氏には製薬会社・世界的IT企業にて培った高い経営コンサルティング、ブランドマーケティングの知見、政府特別プロジェクトメンバーを務めるなどの経験を踏まえたDX推進やグローバル化に、奥野宏氏には金融という専門性の高い視点から、当社が今後、大型のM&A含む当社グループ成長のための各種施策を実行する際における、資金調達を含む当社の財務・ファイナンス戦略に、これまでの経験や知見等を活かして頂けると考えております。
 - いずれの候補者も当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上の実現に向けて必要な人材であると判断いたしました。

以上